

水と緑のキャンパス周辺

川崎の発展に二ヶ領用水

駅から坂道へと向かう途中の大きな水路ですが、これは二ヶ領用水と言います。戦国時代末期、関東に移封された徳川家康の命により、用水奉行である小泉次大夫の指導の元で、14年間をかけて建設された大用水路です。多摩川の水を上河原取水口(現在の稲田堤付近)、宿河原取水口の二ヶ所から取水し、当時の稲毛領、川崎領の二つの代官領に渡って用水を供給したことからこの名

で呼ばれています。現在多摩区から海辺の川崎区まで、当初は農業用水として利用されていましたが、明治時代に入ると水道水、そして工業用水と、現在の川崎地域の開発と発展にとって、重要な役割を果たした水路なのです。今年3月に竣工400周年を迎え、用水沿いの地域で記念イベントが実施されました。近年では景観整備も進められていますので、桜の季節など、中野島方面、宿河原方面を用水沿いに散策してみたいかが良いでしょう。

鎌倉や小田原を守った枳形城

さて坂道です。専修大学やお隣の明治大学のあら人が住むのに適した場所だったようです。地理的には武蔵国と相模国の境にあり、またのキャンパス近くの枳形城は鎌倉や小田原を北方から守る砦として活用されてきました。特に源頼朝の御家人であった稲毛重成は枳形城を居城とし、通学路左手にあるお寺、広福寺のある場所に館を構えていたと伝えられています。奥方は北条政子の妹であった

そして大学に到着。キャンパスを取り囲む豊かな緑地は生田緑地と言います。戦時中の昭和16年に、都心部の防空緑地として設定されたもので、終戦後も平和目的の都市計画緑地として継承され、今日に至っています。基本的には川崎市が管理する緑地ですが、その維持・運営は多くの市民団体の活動に支えられています。日本の都市計画を考える上でも重要な事例となる緑地なので、向ヶ丘遊園駅の南口から真つすく歩くと、少

▲ 二ヶ領用水。江戸時代初期に建造された稲毛領、川崎領にまたがる大用水路



様。陸上部関係のお参りにもってこいです。頑張ってキャンパスまで登れば北方の調布・府中方面だけでなく、東の新宿副都心まで一望することができます。東京スカイツリーが見えるポイントもありますよ。探してみましよう。



▲ 現在は花見の名所としても親しまれている枳形城跡

美術館・民家園も「生田緑地」

日頃なんとなく歩いて通る通学路も、その街並みの背景を知ることによって、また違った見え方があるかもしれません。皆さんがそのような知的アンテナを大学生活で養って、くれることを期待しています。

「微力だが無力ではない」石巻でボランティアの専大生



▲ 石巻中瀬、波にのまれても残った自由の女神

石巻市での活動を終りも出てきました。え、帰京した学生たちに話を聞いた。現地で撮影した写真を提供してくれた佐藤大介さん(法4)は「短い期間で何ができたかと自問自答しながらの活動だった。避難されている皆さんにかけられる言葉も見つからなかった。佐々木真太郎さん(法3)は、「報道で見たい以上の現地の様子を衝撃を受けた」、平野芳隆さん(同)は「泥のかき出しに入ったこの家でも『ありがとう』と声をかけられ、励みになった」

※写真提供①②③④⑤⑥⑦⑧⑨ 佐藤さん、⑩ 守屋さん



▲ 日和山から

①

宮城県栗原市出身の高橋晴弥さん(法2)は「見慣れた光景が、無残な姿になってしまったことに衝撃を受け、参加を決意しました。東京で消防士になる夢がありますが、故郷の復興のために力を尽くしたいという気持ち

た」と話した。

「ありがとう」に励まされ故郷復興の力になりたい



▲ 陸に乗り上げた漁船

▲ 住吉地区 延々と続くがれき



▲ 街に朝日が 復興への希望

③



▲ 各家庭から廃棄される量が集められた



▲ 道路脇の側溝の泥を処分



▲ 住吉地区 波で乗り上げた車



▲ 石巻商店街 波で1階部分が流された

⑥

⑦

⑧

⑨